

当たり前前の奇跡

三年 大井瑤子

我が家には殿がいます。その名はポワロ。ビションフリーゼという犬種で真っ白なアフロ犬です。家に来た時はまだ小さく、いつもはしゃいでいる明るい犬でした。しかし、今ではもう六歳。中型犬なのでまだシニア犬というわけではありませんが昔と比べるとおとなしい性格になりました。時々いたずらもしますし、我儘ではありますが何をしても可愛く、我が家で愛されています。そんなポワロは最近抜歯をしました。歯槽膿漏になってしまったのです。私は驚きました。そして、歳、寿命を感じました。私はあまり寿命について考えなくなかったのですがポワロが少しずつ死へと近づいているのかも知れないと感じました。でも、今は寿命を考えていてもポワロと共に楽しく生活してはいけないと考え、ポワロを幸せにできないのはバカらしいと思いました。もちろん長生きはしてほしいので、様々なことに気をつけて一緒に生活していました。

そんな時に私はインターネットで「三日後に殺処分になります。助けてください。」と書かれたものを見ました。過去のものも見ていくと、たくさん犬や猫の写真と共にその最悪な期限は書かれました。私にはよく理解できませんでした。人はみんな命は大切だ、大事だ、守らなければならない、と言います。しかし今現在では、その大切で、大事で、守らなければならない命が日々強制的に終わらせられているのです。私はネットで調べ法律の中に「動物が命あるものであることをかんがみ、何人も、動物をみだらに殺し、傷つけ、又は苦しめることのないようにする」というものがあると知りました。法律は守らなければならないものだと思います。しかし、殺処分は行われています。なぜだろうと不思議に思いました。そんな疑問の答えは環境省が原則を決め、それに従っている場合ならば、殺処分を行っても良いということになっているから、また、猫や犬の数がとても増えているからというものでした。しかし、だからといって無闇に動物を殺す行いは悪いことであると思います。殺処分が行われている理由の中で最も大きいのは動物が多くいすぎ、飼育しきれないからだと思います。去勢手術をすることや、飼った動物に責任を持つこと、そして最も大切なのは命の大切さを知ることだと思います。上辺だけの言葉ではなく、心からの言葉や行いが小さな生き物たちが幸せに生きられることにつながるのだと思います。

我が家には可愛い犬がいます。何かが違えば殺処分になってしまっていたかもしれないのです。そのため、ポワロに出会え、一緒に暮らしている奇跡に感謝し、今の当たり前のように過ごしている幸せな日々を大切にしていきます。

そして、日々を楽しく幸せにしてくれているポワロに「ありがとう」。

(引用参考 e・GOV 環境省)